

琉球大学学術リポジトリ

琉球列島のマングローブ植物寄生菌類とその分布様式

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀プログラム 公開日: 2007-07-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 亀山, 統一, 松村, 愛美, 佐藤, 隆行, Kameyama, Norikazu メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/828

亀山 統一*・松村 愛美・佐藤 隆行

琉球大学農学部

森林における微生物の種多様性や樹木との相互関係を明らかにする上で、寄生しているが樹体に可視的影響を及ぼさない樹木内生菌への関心が高まっている。しかし、マングローブでは、病原菌と内生菌とを問わず、構成樹種の生立木への寄生菌類相そのものが十分に明らかにされていない。

報告者らは琉球列島のマングローブ寄生菌についての研究に着手し、これまで、琉球列島のマングローブにおける病害探索、病原菌の分布と病徴進展、主に沖縄島におけるヒルギ科植物の内生菌相などについて、検討してきた。本研究では、沖縄島比屋根湿地のマングローブ林においてヒルギ科 3 樹種の枝葉を毎月採取し、分離された主要な内生菌群を特定し、その地域、季節、部位による分布の特性を検討した。また、種子島の湊川、阿嶽川、大浦の 3 メヒルギ林で 1 回枝葉を採取し、その内生菌相を検討した。

調査を通じて、メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギの枝葉から分離された内生菌について、菌叢の形態性状により 13 群を類別した。そのうち、孢子形成をした群についてその形態から同定をすすめたところ、*Phyllosticta* (*Guignardia*), *Phomopsis*, *Dothiorella*, *Pestalotiopsis*, *Seimatosporium*, *Aureobasidium* の各属に所属することが明らかにされ、他の数種について検討中である。これらの内生菌には、菌叢の接種により葉や若い茎の組織に壊死部を形成した群も、接種しても病斑を形成しない群もあった。一方、メヒルギ枝枯病の病原で、琉球列島のメヒルギ林に広く分布する *Cryphonectria liukiuensis* は本調査では全く分離されず、内生（潜在感染）菌として振る舞わないことが明らかになった。

沖縄島比屋根湿地における通年の菌類相調査の結果、齢の高い葉や茎において内生菌の分離率が全体として高くなったが、優占する菌群など分離率の傾向は、分離の時期、樹種、枝葉の部位により異なった。このうち、葉肉・葉柄・茎など部位に選好性を示す菌群は見いだされたが、顕著な樹種・季節特異性を示す菌群は見いだされなかった。また、種子島の 3 メヒルギ林での 1 回の分離試験では、同時期の沖縄島とは異なる菌類相の特徴が示され、これはマングローブの内生菌相に広域・局地ともに地域変異がある可能性を示唆する。

*問合せ先：kameyama@agr.u-ryukyu.ac.jp